

第3学年月組(学級活動)の実践

1. 題材名 みんなで食べよう! たのしく! おいしく!

2. 題材の目標

食事のマナーや箸の持ち方に気をつけ、お互いに楽しい雰囲気の中で、食事をとろうとする意欲を高める。(キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成)

3. 学習活動について

(1) 児童について

(略)

(2) 教材について

近年は核家族化が進み、子どもだけで食事をすることも多く、家族全員と一緒に食事をする機会は少なくなってきた。そのため食事のマナーにどのようなものがあるのか、それらにはどのような意味があるのか等を家庭でゆっくり教わる機会も少なくなりつつある。

食事のマナーの定着を図ることは、相手を思いやることであり、学校給食目標の一つにもなっている。特に箸の正しい持ち方は、成長してからでは修正が難しいため、今の時期に身につけさせたい。そこで食事のマナーの意味を理解し、正しい箸の持ち方・使い方を覚えさせる必要があると考え、この題材を設定した。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、食事のマナーとしてどのようなものがあるのか想起させ、自分たちの給食の様子を視聴することで、食事のマナーを自分のこととして考えさせる。そして、箸を正しく持って食べることは、伝統的な日本の文化であり、さまざまな機能があることを実際の食品を使って実践して見せることで気づかせる。さらに自分のめあてを決めさせ給食時に守れたか定期的にチェックすることで、普段の生活でも定着するよう働きかける。

(ICT活用について)

普段の給食の様子を iPad で撮影し視聴することで、自分がどのような食事のマナーで食べているのか客観的にとらえられるようにする。また、箸の正しい持ち方や使い方を書画カメラで提示することでより見やすくし、正しい箸の持ち方を意識しやすくする。

4. 食育の視点

- ・マナーを守って食事をする事は、相手を思いやることであり、楽しい食事につながる事。
- ・箸の使い方などの食事のマナーを身につけること。 <社会性>

5. 本題材で身につけさせたい力

食事のマナーにおける自らの課題を見つけ、食生活の改善に意欲的に取り組む力

6. 本時の学習

(1) 目標

食事のマナーや箸の持ち方に気をつけ、お互いに楽しい雰囲気の中で、食事をとろうとする意欲を高める。

(2) 展開

T1：担任・飯塚 T2：栄養教諭・坂根

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○)・評価 (【 】) ICT活用
<p>1. 本時の学習内容をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>みんなで食べよう！たのしく！ おいしく！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナーについて知っていることを発表する。 <p>2. 自分の食事のマナーについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の学習ノートを使って振り返りをする。 ・給食の様子を動画で見る。 ・もう一度同じ項目を振り返る。 <p>3. 自分の食事の様子について感じたことを発表する。</p> <p>4. 食事のマナーの大切さについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりの気持ち ・感謝の気持ち ・日本の伝統的な食事を大切にする <p>5. 箸の持ち方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい持ち方を知る。 ・スポンジ君を使って練習する。 ・隣同士で見合って気づいた点を伝える。 	<p>○学級で給食を食べている時や、家庭で食事をする時のことを思い出すことで、気をつけていることを想起できるようにする。(T1・T2)</p> <p>○自分の食事のマナーが守れているか確認するため、自分の様子に注目するよう声かけをする。(T1・T2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の食事マナーの改善点に気づかせるために、普段の給食の様子を動画で見せる。</p> </div> <p>○動画を見る前と見た後のチェック項目を比較することで自分ではできていると思っけていても、できていないことがあることに気づかせる。(T1・T2)</p> <p>○食事マナーの意味について説明し、マナーは人と一緒に食事をするうえで大切であることをおさえる。(T2)</p> <p>○箸の持ち方について気をつける点について具体的に説明する。箸・スポンジ君・はし玉君・ティッシュを人数分用意し意欲を高める。(T2)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>正しい箸の持ち方が分かるように手本を書画カメラで映す。</p> </div>

6. 自分で気をつけたいところを食の学習ノートに書く。	○学習した内容が定着するように、個人の決めた目標を給食時間に取り組むことを伝える。(T1) 【関心・意欲・態度】マナーの意味を理解し、自分の課題を見つけ改善しようとしている。(食の学習ノート)
7. 本時の学習の振り返りを食の学習ノートに書く。	○本時の学習を振り返り、感想を発表させる。(T1)

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	おおむね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
関心・意欲・態度	マナーの意味や必要性を理解し、自分の課題に気づき、改善しようとしている。	マナーの意味を理解し、自分の課題に気づいている。	チェック項目をもとに改善すべき課題について一緒に考える。

(4) 研究の視点

児童の普段の給食の様子を撮影し視聴できるようにしたことは、自己の振り返りやマナーを守ろうとする意欲を高めるために有効であったか。

7. 指導の実際と考察

(1) 授業展開の工夫

食事のマナーについて自分の課題をとらえるために、食の学習ノートを使用して、〈自分の食べ方をふりかえてみよう〉を最初に行った。初めは普段の給食の様子を思い出しながらか、できているものには○をつけた。その後、事前に撮影した普段の給食の様子を見て、自分のマナーの振り返りを行った。

動画を見る前には自分はできている(○)と思っていた児童も、動画を見た後には、できていなかった(×)、少しできていなかった(△)と自己を客観的に振り返ることができていた。児童の振り返りからも「自分は食事のマナーができていると思っていたけど、映像を見てみると、できていないことが分かったので、これから直していきたいです。」といった感想があった。



【食の学習ノートでの振り返り】

食事のマナーの意味については、実際にやって見せたりしながら説明はしたものの、一方的な説明になってしまった。マナーの必要性を実感させるためには、自分たちで考えるための話し合い等の手段が必要であったと思う。

箸の正しい持ち方やマナー、箸使い(鮭の皮をはぐ・ほぐす、豆腐をつまむ、ごはん粒・ゴマ粒をつまむ)などを実際の食品を使って見せることは、児童の反応からも箸を正しく持つ意欲につながったと思われる。拡大機能を使うことで、米粒やゴマ粒をつまむ動作などもはっきり見せることができた。しかし、書画カメラで撮影して見せるため、白いごはん、白い茶碗では、米粒が見えにくかったので、食器の選定も重要であると感じた。



【食事マナーの説明】



【箸使いを書画カメラで投映】

箸の正しい持ち方は、見てわかっていても実際に改善するのが難しいため、意欲を高めるために、年齢にあった長さの箸、スポンジ君、はし玉君、ティッシュを用意した。(写真)



しかし、箸で持つことに意識が向いて

しまい正しい持ち方の習得には結びつきにくいように感じた。

【スポンジ君を使って練習】

児童の振り返りからは、「はしのもち方は本当にむずかしいです。お家でも、練習して正しいはしのもち方をしてみたいです。いつも私はいけないはしのもち方をしていたことが、今分かってよかったです。これからも気をつけたいです。」といった感想もあった。

(2) 成果 (◎) と今後の課題 (●)

◎普段の給食の様子(動画)、箸の持ち方・使い方の拡大投映、はし玉君やスポンジ君など、実際の様子を見ることや具体物があり、子どもたちの興味・関心を高めることができ、終始集中して授業に臨んでいた。

◎書画カメラを使った拡大や限定した提示方法は、子どもたちに分かりやすく伝えるために有効だった。

◎担任と栄養教諭のTTで食の学習の授業を行うことで、児童の実態を細かく把握し、課題を共有することができるため、より効果的な指導が行えると感じた。

●食事マナーと正しい箸の扱いの関連性を持たせるために、教師の説明が長くなり、授業時間が足りなくなってしまった。ねらいを明確にし、「かっこいい(美しい)食べ方はどういうものか」、「マナーを守るのはなぜ大切なのか」などのテーマを挙げ、児童が話し合い、考えを集約、共有しやすい学習過程を組むことが必要であった。

●給食の様子やマナーを振り返る場面などで、児童の良い気付きやつぶやきがあったが、本時は教師の一方的な働きかけが多くなってしまった。児童同士で自分の考えを話し合う場を設定していたら、より自分たちの課題として改善しようとする意識が高まったのではないかと思う。

●小学校6年間で箸の持ち方を学級活動で扱うのは、3年の時だけなので、授業として取り上げるほかに日常的、継続的な指導、家庭との連携も考えていきたい。